

# NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2014年10月31日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。  
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	出願番号	2014-026733	整理番号	11820	担当者	松岡 義人
表 題	二重蛍光を利用した3-デアザプリン誘導体を含む蛍光DNAプローブ					
技術分野	食品・バイオ	化学・薬品			ライフサイエンス	
適用製品	遺伝子診断試薬、DNAチップ					
目 的	プローブ周辺の粘度に応じて分子構造を変化させ、分子のねじれに応じた発光波長を示す二重蛍光性3-デアザプリンヌクレオシド誘導体を合成し、これらを含む新規蛍光DNAプローブを開発した。これらを用いることで、新たな遺伝子診断試薬や新しいメカニズムで遺伝子を検出するDNAチップを開発することを目的としている。					
技術概要	本発明の蛍光DNAプローブに用いる3-デアザプリンヌクレオシド誘導体は、周辺の粘度の違いにより蛍光発光波長が大きく変化する(色の変化が見られる)二重蛍光性化合物である。 これを用いることで、細胞内等における局所的な粘度の違いを発光色の変化により検出する試薬への応用が期待できる。例えば、オリゴヌクレオチド鎖に導入することで、RNAiなどの細胞内における局在環境の粘度に関する情報をモニタリングすることも可能になると考えられる。さらにこの手法を発展させることも可能である。例えばタンパク質や核酸などの生体高分子と蛍光プローブを相互作用させ、それに伴って生じる立体障害により蛍光核酸分子内の色素部位の回転を抑制させ、高粘度の場合と同様の分子回転を抑制する環境を作り出すことにより、タンパク質とオリゴヌクレオチド鎖の相互作用や、それを利用したSNPsタイピングも可能になると考えられる。					

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>				
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>				
会社名	<input type="text"/>				
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>		
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>		
E-mail	<input type="text"/>				
連絡事項	<input type="text"/>				



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp